

富士屋鉄工株式会社

社長のこだわり、確かな指導力

本見学会でははじめに社長さんから経営理念である「顧客を満足させるための3つの心」について話を聞くことができた。

1つ目はお客様のニーズを実現しようとする心。2つ目は高付加価値な技術を探求し続ける心。3つ目は仲間や社会に対する感謝を忘れない心である。

これら3つの心を忘れずによりよい製品を顧客に届けていることがこの会社の強みだ。社長さんには強いこだわりがある。

5Sを徹底することにより、社内を作業しやすい環境に変えることだ。



基本方針（富士屋鉄工株式会社ホームページより引用）

取得している。製品は環境関連設備、各種容器類、産業機械類、化学装置類、クレーン設備の5つの分野に分けられるが、いずれも非常に大きく多種多様な製品が製作されていることに驚いた。大きい物では工場の天井ギリギリの製品も製作したことがあるという。

製品を作る上で、特に気をつけているのは危険物の取扱いや圧力容器の安全性である。このように安全な製品を作り上げようという心掛けから会社としての強い責任感を感じた。



トラックダンパー装置（富士屋鉄工株式会社ホームページより引用）

確かな技術力と5Sの徹底

工場見学では大きな機械や製造途中の製品のほか、社長さんのこだわりが工場にどのようになっているのを見学してはじめて驚いたのは建物の大きさである。幅100m、奥行き30m、高さ10mもある巨大な工場である。

大きな製品を作るためには大きな建物が必要になるのだと改めて実感した。工場に入ると天井にある大きなクレーンが目立つ。天井走行クレーンは工場内には全部で12機あるが、クレーン製造許可を有するこの会社では、すべて自社で製作して使っているところが面白い点だ。

工場内には大きなドリルや溶接機、ペンディングローラーなどの機械がある。工場で行っているのは主に二次加工で、一次加工は外注しているという。

塗装ではペンキを使用する。塗装を行うエリアは冬場に湿度を保てるようにシヤッターで仕切ることでできるようなになっていた。

資材置き場では耐食性のあるステンレスが鉄の5倍の値段であるを知った。



天井走行クレーン（富士屋鉄工株式会社ホームページより引用）

多種多様で大きな製品たち

この会社は100年以上の歴史がある会社である。長い歴史があるからこそできるゼ口からのモノづくりが会社の強みだ。こういう製品を作りたいたいという顧客の要望に応えていくことがやりがいだという。確かな品質と安全性を持っており、品質マネジメントシステムであるISO9001



下水汚泥処理施設（富士屋鉄工株式会社ホームページより引用）

そのために、ステンレスなど値段の高い材料は残しているが、値段の低いものは社長さんが捨てたという。社長さんは「いつか使うだろう」という材料が徹底的に捨てられている。工具が置いてある場所もかなり整理整頓さ



ジャケット第一圧力容器（富士屋鉄工株式会社ホームページより引用）

れていた。この場所も社長さんが工場にある工具を全て集めて綺麗にまとめたという。集めたときは、本来使われる3倍の工具が出てきたそうだ。

他にも見通しをよくするために壁を削り、段差があつて不便だったところを敷鉄板に変え作業を効率よく行えるようにするなど、社長さんのこだわりが職場に良い影響をもたらしていることが分かった。

OBが語る仕事の面白さ、確かな経験とチームワーク

交流会では北海道科学大学のOBによる学校と社会の違いについての体験談と質疑応答が行われた。

OBの話で気になったのは、大学の授業で学んだことの多くが仕事をやる上で役に立たなかったという話だ。

大学などで学んだことは知識としてあれば役に立つこともあるが、仕事で必要な知識のほとんどは就職してから勉強することが多いという。

大学で学んだ知識として求められるのは4力学（よんりきがく）（材料力学、流体力学、熱力学、機械力学）の基礎知識だそう。

4力学は就職してから必要となる場合が多く、学生のうちに4力学をしっかり勉強しておけば良かったと後悔したという話を聞いて、この会社のような業種に就職を考えるならば卒業までに最低でも4力学の基礎知識はきちんと理解しておく必要性を感じた。



円筒造粒機（富士屋鉄工株式会社ホームページより引用）

OBが会社や自分の経験を詳しく話しているのを聞いて、それだけ仕事にやりがいや面白さを感じているのが伝わってきた。

質疑応答の時間では多種多様な製品を製作するときに、どのような苦労があるかを聞いた。

大変なところは主に2つあるという。1つ目は二十数人という少ない人数で作業しなければならぬことである。2つ目はオーダーを受けてどのように製作するかを考えることだそう。時にはどう製作するかを全員でアイデアを出し合いながら設計することもあった。

少ない人数で大きく特殊な製品を製作可能にしているのは、経験とチームワークである。協力が必要なの仕事だからこそ、社長さんは明るく元気で素直な人材が欲しいのだから。



工場内部の様子

▼会社DATA▼

富士屋鉄工株式会社

代表者名
代表取締役社長 松宮 勇

住所
石狩市新港西3丁目748

電話番号
0133-73-9571

ホームページ
<http://www.fujiya-group.co.jp/>